



## 2023年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年8月14日

上場会社名 株式会社アゴラ ホスピタリティグループ  
コード番号 9704 URL <http://www.agorahospitalities.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) クォック・ゲイリー・ヤン・クエン

問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部部长 (氏名) 石井伸幸

TEL 03-3436-1860

四半期報告書提出予定日 2023年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第2四半期の連結業績(2023年1月1日～2023年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	3,396	56.1	138		149		56	
2022年12月期第2四半期	2,176	51.0	824		687		794	

(注) 包括利益 2023年12月期第2四半期 78百万円 ( %) 2022年12月期第2四半期 748百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	0.22	
2022年12月期第2四半期	3.13	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第2四半期	17,766	5,425	19.6
2022年12月期	17,035	5,145	20.7

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 3,489百万円 2022年12月期 3,534百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期		0.00			0.00
2023年12月期		0.00			
2023年12月期(予想)					0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,000	41.4	50		50		100		0.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期2Q	281,708,934 株	2022年12月期	281,708,934 株
期末自己株式数	2023年12月期2Q	27,764,569 株	2022年12月期	27,764,544 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期2Q	253,944,365 株	2022年12月期2Q	253,944,390 株

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	10
3. その他 .....	11
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同四半期を大きく上回る3,396百万円（前年同四半期比56.1%増）となりました。宿泊事業における売上高は2,916百万円（前年同四半期比67.0%増）となりました。霊園事業および住宅等不動産開発事業等を行っているその他投資事業の売上高は479百万円（前年同四半期比11.7%増）となりました。

営業費用については、継続的なコスト削減に努めておりますがエネルギーコストの増加、人件費の増加の影響もあり営業損失は138百万円（前年同四半期は営業損失824百万円）となりました。また、営業外収益として為替差益62百万円を計上いたしました。なお、前年同四半期には新型コロナウイルス感染症拡大防止等の支援金である受取協力金を106百万円計上しておりましたが、当期四半期においては、同支援金の計上はございません。それらの結果、経常損失は149百万円（前年同四半期は経常損失687百万円）となりました。また、特別利益として今井荘の売却に伴う固定資産売却益128百万円を計上したほか、非支配株主に帰属する四半期純損失33百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は56百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失794百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は以下のとおりです。

#### ① 宿泊事業

当第2四半期連結累計期間における宿泊事業部門におきましては、すべての宿泊施設が期間を通じて営業を行い、円安が進み訪日客利用の回復が進んだことにより、主要なホテル アゴーラ リージェンシー 大阪堺においては売上高1,135百万円（前年同四半期比36.9%増）、ホテル アゴーラ 大阪守口においては売上高657百万円（前年同四半期比64.7%増）となり、宿泊事業部門全体では売上高2,916百万円（前年同四半期比67.0%増）となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大によりホテル アゴーラ リージェンシー 大阪堺やホテル アゴーラ 大阪守口のレストランを一部閉鎖しておりましたが、ホテル需要の回復にともない、徐々に再開している一方で、レストラン、宴会部門における人員不足の影響も認められており、ホテル内で適正な人員配置を継続して行っておりますが、円安や物価高、人件費の高騰の影響を受け、営業損失は80百万円（前年同四半期は営業損失726百万円）となりました。また、2023年3月31日付の今井荘の売却にともない、特別利益として固定資産売却益128百万円を計上しております。

#### ② その他投資事業

マレーシアにおける霊園事業の売上高は堅調に増加し427百万円（前年同四半期比2.5%増）、営業利益は54百万円（前年同四半期比45.0%減）となりました。これは、当第2四半期連結累計期間においても、新規受注及び引き続き既契約案件の引渡しも堅調に進捗したものの、工事にとまなうエネルギーコストが増加したことによります。

証券事業は売上高40百万円、営業利益36百万円（前年同四半期は営業損失47百万円）となりました。それらの結果、その他投資事業部門における売上高は479百万円（前年同四半期比11.7%増）となり、前年同四半期を上回る営業利益99百万円（前年同四半期比62.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 財政状態

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4.3%増加し、17,766百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて20.9%増加し、5,318百万円となりました。これは現金及び預金が959百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.4%減少し12,398百万円となりました。これは有形固定資産が134百万円減少したことなどによります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて15.4%減少し49百万円となりました。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて3.8%増加し、12,340百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3.5%増加し、8,695百万円となりました。これは、未払金が152百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて4.6%増加し、3,645百万円となりました。これは、長期借入金が239百万円増加したことなどによります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて5.4%減少し、5,425百万円となりました。これは、非支配株主持分が325百万円増加したことなどによります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ960百万円増加し、2,954百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は178百万円（前年同四半期は194百万円の使用）となりました。

これは主に税金等調整前四半期純損失20百万円を計上したものの、非現金支出費用である減価償却費、のれん償却額および開業費償却額を合計239百万円計上したことなどによります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は152百万円（前年同四半期は33百万円の使用）となりました。

これは主に有形固定資産の取得による支出480百万円、有形固定資産の売却による収入632百万円によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は596百万円（前年同四半期は95百万円の使用）となりました。

これは主に長期借入れによる収入249百万円、非支配株主からの払込みによる収入355百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の業績予想につきましては、主力事業である宿泊事業におきまして、新型コロナウイルスの流行により、現時点で合理的な業績予想の算出をすることが困難なため開示をしておりません。今後、業績予想が可能になりました段階で公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,118,867	3,078,127
売掛金	395,509	359,244
有価証券	333,745	365,127
貯蔵品	76,213	53,186
開発事業等支出金	1,205,760	1,277,331
その他	289,369	201,213
貸倒引当金	△19,087	△15,664
流動資産合計	4,400,377	5,318,566
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,679,753	3,523,366
車両運搬具(純額)	8,477	7,797
工具、器具及び備品(純額)	84,762	75,271
土地	5,985,194	5,510,992
建設仮勘定	949,700	1,455,468
有形固定資産合計	10,707,889	10,572,896
無形固定資産		
商標権	0	0
ソフトウェア	10,719	7,346
のれん	977,305	904,376
無形固定資産合計	988,024	911,723
投資その他の資産		
投資有価証券	213,862	213,788
長期貸付金	480,034	513,160
その他	186,736	187,391
投資その他の資産合計	880,634	914,340
固定資産合計	12,576,548	12,398,959
繰延資産	58,199	49,245
資産合計	17,035,125	17,766,772

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	214,751	195,968
短期借入金	54,312	60,304
1年内返済予定の長期借入金	4,231,571	4,234,207
未払金	3,077,343	3,230,001
未払費用	44,782	29,934
未払法人税等	92,025	82,842
賞与引当金	—	79,408
その他	689,676	783,073
流動負債合計	8,404,462	8,695,740
固定負債		
長期借入金	2,799,839	3,039,176
長期預り保証金	288,443	238,360
資産除去債務	46,000	46,000
その他	350,722	321,652
固定負債合計	3,485,005	3,645,189
負債合計	11,889,468	12,340,929
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,534,406	8,534,406
資本剰余金	2,646,000	2,646,000
利益剰余金	△6,678,247	△6,734,592
自己株式	△1,033,538	△1,033,538
株主資本合計	3,468,621	3,412,276
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	△1,348
為替換算調整勘定	65,421	78,127
その他の包括利益累計額合計	65,429	76,778
新株予約権	97,364	97,364
非支配株主持分	1,514,242	1,839,422
純資産合計	5,145,657	5,425,842
負債純資産合計	17,035,125	17,766,772

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,176,010	3,396,645
売上原価	2,154,499	2,539,939
売上総利益	21,511	856,706
販売費及び一般管理費	845,947	995,641
営業損失(△)	△824,436	△138,935
営業外収益		
受取利息	2,095	6,354
受取配当金	2	2
受取家賃	—	3,512
為替差益	134,472	62,099
プリペイドカード失効益	1,336	378
受取協力金	106,613	—
その他	5,136	10,431
営業外収益合計	249,657	82,779
営業外費用		
支払利息	44,596	44,937
資金調達費用	14,206	12,791
持分法による投資損失	27,612	9,013
開業費償却	24,029	8,953
その他	2,725	18,023
営業外費用合計	113,169	93,720
経常損失(△)	△687,948	△149,875
特別利益		
固定資産売却益	—	128,941
特別利益合計	—	128,941
特別損失		
事業撤退損	98,179	—
特別損失合計	98,179	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△786,128	△20,934
法人税、住民税及び事業税	33,749	76,846
法人税等調整額	2,809	△8,205
法人税等合計	36,559	68,641
四半期純損失(△)	△822,687	△89,575
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△27,978	△33,230
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△794,708	△56,345



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△822,687	△89,575
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△1,356
為替換算調整勘定	74,294	12,706
その他の包括利益合計	74,294	11,349
四半期包括利益	△748,393	△78,225
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△720,414	△44,995
非支配株主に係る四半期包括利益	△27,978	△33,230

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△786,128	△20,934
減価償却費	162,007	157,701
のれん償却額	72,928	72,928
開業費償却額	24,029	8,953
貸倒引当金の増減額(△は減少)	415	△3,424
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	79,408
受取利息及び受取配当金	△2,098	△6,357
固定資産売却益	—	△128,941
支払利息	44,596	44,937
為替差損益(△は益)	△172,638	△74,251
持分法による投資損益(△は益)	27,612	9,013
株式報酬費用	4,597	—
事業撤退損	98,179	—
売上債権の増減額(△は増加)	32,058	36,267
営業投資有価証券の増減額(△は増加)	144,410	△31,382
棚卸資産の増減額(△は増加)	16,227	23,026
開発事業支出金の増減額(△は増加)	31,509	△35,721
仕入債務の増減額(△は減少)	△27,298	△21,371
未払金の増減額(△は減少)	409,928	125,365
長期前払費用の増減額(△は増加)	14,068	9,123
敷金及び保証金の増減額(△は増加)	100,045	—
その他の流動資産の増減額(△は増加)	127,852	△12
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△8,367	86,816
その他の固定資産の増減額(△は増加)	—	3,994
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△16,096	△71,328
その他	△13,650	△1,211
小計	284,189	262,601
利息及び配当金の受取額	2,098	6,357
利息の支払額	△46,096	△45,355
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△45,431	△45,058
営業活動によるキャッシュ・フロー	194,759	178,544
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△29,875	△480,459
有形固定資産の売却による収入	—	632,813
無形固定資産の取得による支出	△4,090	△220
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,965	152,133
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△83,358	5,992
長期借入れによる収入	8,690	249,680
長期借入金の返済による支出	△6,468	△15,718
引出制限付き預金の純増減額(△は増加)	△13,876	1,319
非支配株主からの払込みによる収入	—	355,610
財務活動によるキャッシュ・フロー	△95,012	596,883
現金及び現金同等物に係る換算差額	95,737	33,018
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	161,518	960,579
現金及び現金同等物の期首残高	1,809,312	1,994,185
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,970,831	2,954,764

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症は当社グループの主力事業である宿泊事業に大きな影響を与えております。

新型コロナウイルス感染症が当社グループの業績に与える影響については、前連結会計年度の有価証券報告書(追加情報)に記載した仮定に関し、重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期や事業環境への影響は依然として不透明な状況であり、感染状況に変化が生じた場合には、第3四半期連結会計期間以降の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	宿泊事業	その他投資事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,746,537	429,473	2,176,010	—	2,176,010
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,746,537	429,473	2,176,010	—	2,176,010
セグメント利益又は損失 (△)	△726,232	61,621	△664,611	△159,825	△824,436

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△159,825千円は、各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	宿泊事業	その他投資事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,916,751	479,894	3,396,645	—	3,396,645
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,916,751	479,894	3,396,645	—	3,396,645
セグメント利益又は損失 (△)	△80,581	99,924	19,342	△158,277	△138,935

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△158,277千円は、各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、世界的な新型コロナウイルスの影響により、訪日観光客数が減少したことを主要因として、営業損失138百万円、経常損失149百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失56百万円を計上しました。また、世界的な新型コロナウイルスの終息及び宿泊需要の回復には一定の期間を要するものと考えられることから、当社グループの資金繰りに懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社は、当該状況を解消すべく、2020年7月に当社グループが保有する賃貸不動産、2023年3月に当社が保有する固定資産を売却したほか、徹底した固定費の削減並びに金融機関からの運転資金の調達等により、当面の運転資金を確保しております。